

教授就任に際して

ご挨拶

市野篤史

今年の5月に准教授から教授に昇任しましたことに伴い、ご挨拶申し上げます。新しい環境に身を置くことになり、大きな責任を感じるとともに、気持ちを一新し全力で業務に取り組む覚悟です。

私は1994年に京都大学に入学し、そこで学位取得までの8年間を過ごしました。その後、2002年に大阪市立大学に助教として採用され、8年間ほど大阪で過ごした後、2010年10月にこちらへ准教授として着任いたしました。つまり、私が数学教室にお世話になっている期間は既に20年以上に及びます。当時修士課程のときに過ごしていた中庭のプレハブは、今では四季折々に美しい花々が咲く素敵な場所になり、私も桜や紫陽花などが咲くのを楽しみにしております。また学部3回生のときに代数学演習を受けていた110号室は、未だに当時の面影を残しており、懐かしい思いが込み上げます。数学教室で過ごした時間は長く、今後もこちらで働けることに感謝しております。

私の専門は数論の一分野である保型形式です。学部生のときに保型形式の授業を履修しましたが、当時はまったく理解できませんでした。しかし、なぜか引き寄せられる魅力を感じ、その縁から保型形式を専門とする道を選びました。保型形式からはL関数が定まり、その特殊値は数論的な情報を含んでいると考えられています。そのため、このL関数の特殊値を周期と呼ばれる保型形式の別の不変量を使って表すことは、数論において重要な問題の一つです。また保型形式の局所的な性質を調べるために、 p 進簡約群の表現論が必要となります。この表現論においても、特殊値と表現論的不変量の関係を探求することが興味深い問題となっています。私はこのような問題において、非自明な例を見つけることに魅力を感じ、研究を行ってまいりました。幸いなことに、多くの優れた共同研究者に支えられながら、これまで研究を続けることができています。最近では、これまでの研究とは少し異なる p 進保型形式の分野で新たな公式を見つけることができましたが、その幾何的解釈はまだ証明できておらず、試行錯誤を続けながら研究を進めています。今後も現状に満足せず、研究の幅を広げていくことを目指してまいります。

教育の面でも、数名の優秀な学生を指導し、彼らの著しい成長を目の当たりにすることができました。今後は運營業務にも関わることとなります。まだ経験も浅く右も左も分からない状況ですが、数学教室への貢献に向けて努力を惜しまず取り組んでまいります。皆様のご指導とご鞭撻を心よりお願い申し上げます。